

【個人】

提出 令和3年(2021年)8月10日

山行報告書

山行報告提出者：鈴木

山域・山名：鳥海山(2236m)		山形県遊佐町
入山日：2021年8月9日(月) 日帰り 往復夜行バス利用		
プラン担当者 正：鈴木 副：		中腹からの日本海(右遠方は男鹿半島)
参加者	L：報：記：鈴木	
	男1名、女名、計1名	
天候：曇りのち霧雨、烈風		
8月8日(日)	東京駅 21:50 発 象潟駅行き夜行バス乗車	
8月9日(月)	5:45 象潟駅着 6:20 発 6:50 銚立着乗合タクシーで移動、7:00 銚立登山口発-9:30 賽の河原-10:20 御田ヶ原-11:20 鳥海山-13:00 御田ヶ原-13:50 賽の河原-15:00 銚立下山 (行動：8h00m) 銚立 16:10 発 道の駅ねむの丘 16:50 着の乗合タクシーで移動、入浴食事 22:20 象潟駅発夜行バスで東京駅へ	
8月10日(火)	6:10 東京駅着 帰宅	
荒天候時のエスケープルート：山行中止し引き返す。		
装備と食糧	共同装備：無し	車提供者：無し
	共同食：無し	
感想	個人装備：ヘッドランプ、コンパス、地図、テルモス(水)、帽子、グローブ、スパッツ、ツェルト、雨具、傘、ラジオ、日焼け止め、虫除け	
	個人食：昼食、行動食	
登山口に着き振り返ると正面に飛島、右奥に男鹿半島を従えた日本海が視界に飛び込んできた。この絶景を山頂で拝める期待感がのちに無駄になるとも知らずにわくわくしながら歩き始める。賽の河原までは完璧に整備された登山道で、以降普通の道になるが全体的に急登やドロ道も無く歩きやすい。七五三掛を過ぎると谷への下りや雪渓横断が現れるとともに、天候が怪しくなり霧雨を交えた烈風に晒され始めた。山頂直下は北アルプスを思わせる大岩の急登が現れ、烈風でよろける体を霧雨で濡れた岩で支えながら、なんとか山頂にたどり着いた。下山は外輪山コースを周遊する計画であったが、雨・ガス・強風下での危険回避のため来た道を辿った。登下山口の銚立は食堂施設が不買でも利用でき、帰路の夜行バス乗車までの暇つぶしに利用した道の駅ねむの丘も温泉併設で大満足。唯一、肝心の山頂付近の荒天がいつものことながら心残りであった。		